

あいちのたてもの いのりのば編

AITI NO TATEMONO INORINOBA HEN



REGISTERED
TANGIBLE
CULTURAL
PROPERTY



あいちのたてもの
いのりのば編

AGENCY FOR CULTURAL AFFAIRS,
GOVERNMENT OF JAPAN



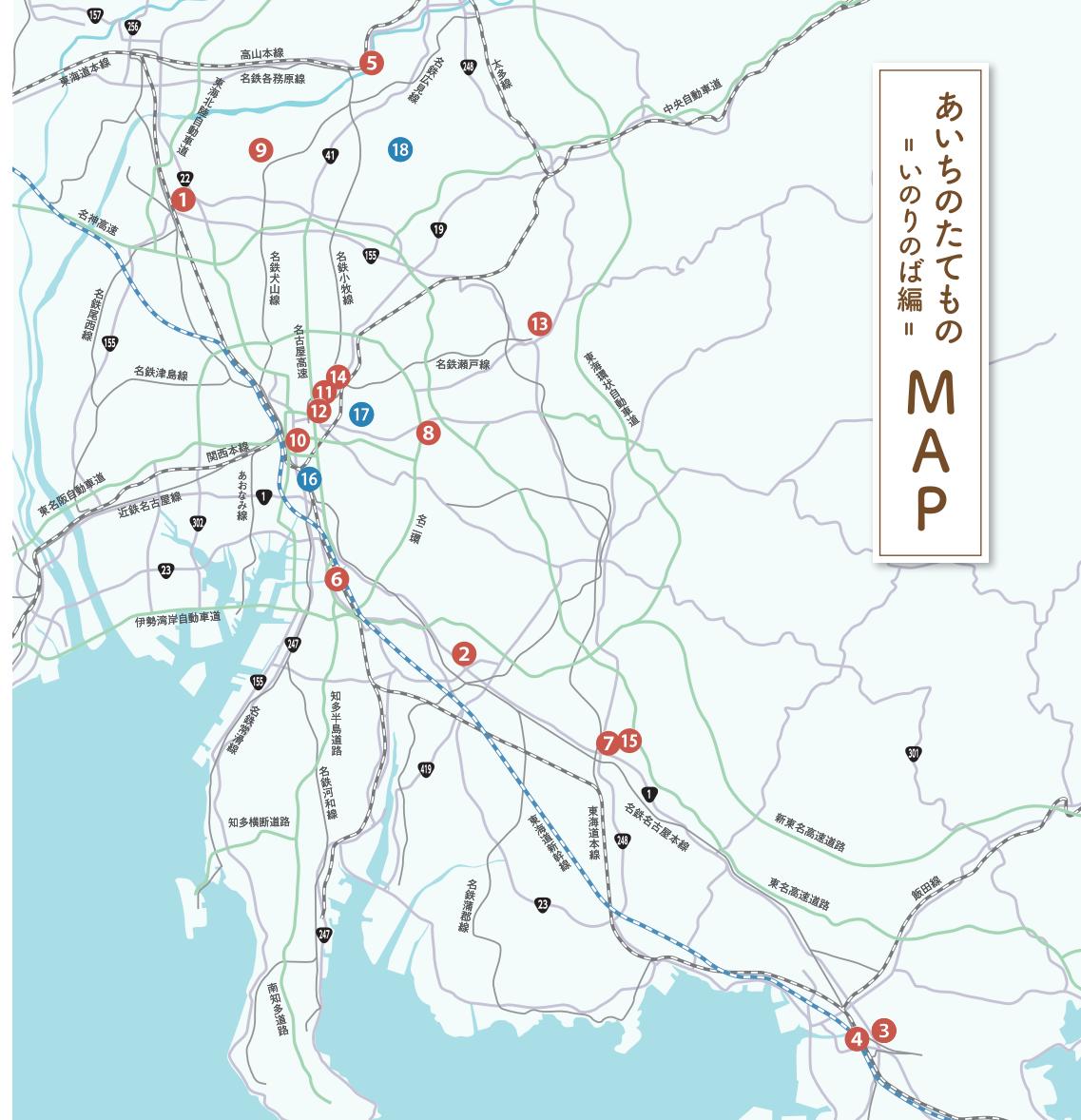
あいちのたてもの いのりのば編

愛知県国登録有形文化財
建造物所有者の会



あいちのたてもの いのりのは"編

絵文 村瀬良太



- | | |
|-------------------|-----------------------|
| ① 真清田神社 » p.12 | ⑩ 崇覚寺 » p.36 |
| ② 知立神社 » p.14 | ⑪ 建中寺徳興殿 » p.38 |
| ③ 安久美神戸神明社 » p.16 | ⑫ カトリック布池教会 » p.42 |
| ④ 旧羽田八幡宮文庫 » p.20 | ⑬ 瀬戸永泉教会 » p.44 |
| ⑤ 寂光院 » p.24 | ⑭ 日本福音ルーテル復活教会 » p.46 |
| ⑥ 春江院 » p.26 | ⑮ 日本福音ルーテル岡崎教会 » p.48 |
| ⑦ 善立寺 » p.28 | ⑯ 熱田神宮 » p.18 |
| ⑧ 蓮教寺 » p.32 | ⑰ 日泰寺奉安塔 » p.30 |
| ⑨ 報光寺 » p.34 | ⑱ 博物館明治村 » p.50 |

もくじ	
はじめに	2
愛知の建物、祈りの場編	4
【コラム】建物を楽しむために	10
◆神社	11
真清田神社	12
知立神社	14
安久美神戸神明社	16
『特集1』熱田神宮	18
旧羽田八幡宮文庫	20
【コラム】建築家角南隆	22
◆寺院	23
蓮教寺	24
春江院	26
寂光院	28
善立寺	30
『特集2』日泰寺奉安塔	32

はじめに

私たちのまわりには、古めかしい洋館や、立派なお屋敷、歴史のある校舎に、清楚な神社、荘厳な寺院や、可愛らしい教会、そして大きなレンガの工場に、役割を終えた電波塔など、年月を重ねた建物がごく自然にまちにとけ込んでいます。そういった文化財として貴重な建物を、国登録有形文化財といいます。日本には他にも、重要文化財や国宝などに指定された建物があり、現在その総数は、1万5000件に上ります。

市指定・県指定のものを含めると、さらにその数は増えますが、一方で、フランスの規定する歴史的記念物の4万4000件には遠くおよびません。日本は文化的には、まだ発展途上なのです。

本書は、愛知県にある国登録有形文化財の魅力を紹介する本です。今回は「いのりのば編」として、江戸時代から昭和にかけて建てられた神社、寺院、教会を中心取り上げています。それらはすべて、あたりまえに残ってきたわけではありません。多くの人々の努力で残してきたものも少なくないのです。そういった意味では、残された建物はすべて価値のある良い建築といえます。そんな身近にある良い建築を知ることで、私たちのまちとその風景を大切に思う気持ちにつながってほしいと思います。

パリの美しい街並みも、フランスの人々がその重要性に気がつき、建物と景観を大切に保存するまでに、多くの経験を積んできました。

この本が、建物とまちの歴史を知る一助になることを願っています。



愛知の建物、

祈りの場編

はじめに

世界中の建築の歴史は、宗教にまつわる建物に彩られています。日本ももちろん例外ではありません。神社なら伊勢神宮、寺院なら法隆寺、教会なら大浦天主堂など、素晴らしい建物がたくさんあります。

太古の祈りの場

有史以前から日本人は、太陽や海、山など自然の中に神がいると考へ、これを敬つてきました。例えば奈良の三輪山をご神体に崇める大神^{おおかみ}神社などは、日本人の原始の信仰が現れています。

そんな神のいる場所に社を建てるようになつたのは弥生時代からで、社殿のかたちには、米作りとともに広まつた高床式の建物が使われました。

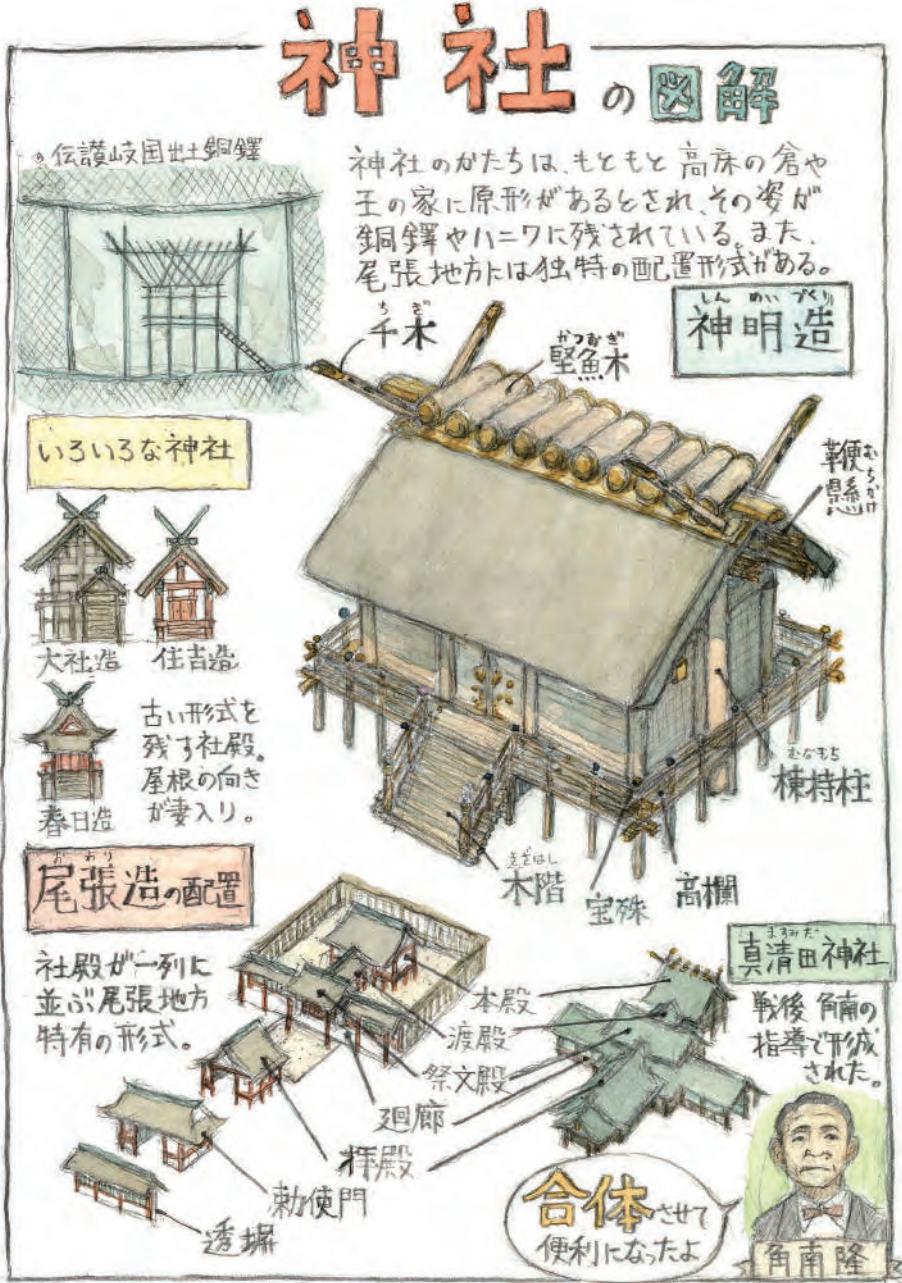
米作りには、開墾のための道具や集団の力が必要となり、定着したムラが形成されました。ムラには王が登場し、また備蓄した米をめぐつてムラ同士の衝突も起こりました。王の住まいは、米の倉庫だった高床式の建物が用いられ、神を祀る社殿もそれに習つて形づくられたと考えられています。

伊勢神宮などの古い形式を残す社殿

仏教伝来

日本の信仰に大転換が訪れたのは、6世紀のことでした。各地で登場した王のうち、近畿地方の王たちが興した大和王権に、朝鮮半島の百濟から仏像と經典が贈られました。大陸の高度な文化に触れた王権は、国を守り安定させるために仏教を取り入れることにしました。これは、新しい信仰の対象を迎えるというだけでなく、国家を統一する柱として仏の教えを取り入れるという目的がありました。

それを推進したのが聖徳太子で、太子が建立したとされるのが法隆寺です。現在の法隆寺西院は7世紀後半の再建と考えられていますが、それでも世界最古の木造建築として、太古の寺院の姿を伝えています。



千年をかけて形づくられてきた建築の歴史があり、装飾にはさまざまなお意味が潜んでいます。

が高床式の建物で、屋根の上には千木や
かづき
堅魚木などの装飾が載っているのは、王
の住まいだったころの名残といわれてい
ます。

た土木技術が応用され、またお堂の建設には新しい技術が導入されました。特に瓦と礎石は、建物の耐久性を格段に飛躍させました。雨の多い日本では、建物を傷めるのが木材の腐食だったため、瓦で屋根を覆い礎石で柱が地面から切り離されたことは、大きな進歩となつたのです。

8世紀の半ば、平城京に東大寺が建立されたときに、九州宇佐地方の八幡神が援助を申し出て、同地の銅が多く使用されました。このような日本古来の神と仏教が交わることを神仏習合と言います。この頃から、神社に寺院の形式が取り入れられ、朱塗りで向拝の付いた春日大社のような社殿が形づくられました。

また、全国の神社の近くに、神を守る目的で神宮寺が建立されています。創建時の寂光院は白鳥山神宮寺として建立され、また知立神社の境内にたつ多宝塔も、神宮寺の名残です。

寺院の中心となる本堂は古くは金堂と呼ばれ、仏像が祀られた。原形は中国の役所の建物といわれる。だんだん人が参拝する空間として整えられ、江戸時代に各宗派の形式が出来た。

仏教の伝来で日本の社会は大きく変



中世の新仏教と構造革命

仏教の伝来で日本の社会は大きく変

わりました。7世紀後半には中国に習つて律令が敷かれ、都も平城京から平安京と移り変わり、大きな寺院も建てられました。また都には、寺院の講堂に檜皮の屋根を葺いた貴族の邸宅が登場しました。これが後に寝殿造となり、室内を飾つた御簾や置き畳、燈台や丸柱などの形式は、現在の社殿へと受け継がっています。

その一方で、地方の支配は武士へと移り、古代の支配体制が崩壊していきます。また仏教も、武士や農民らに開かれた禅宗や浄土宗などの新仏教が登場します。

なかでも親鸞聖人の起こした浄土真宗は、最大の宗派へと発展していきます。報光寺や蓮教寺、崇覚寺も浄土真宗のお寺です。

ところで、建築にとって技術的な革新となつたのは、禅宗の建物でした。鎌倉幕府には建仁寺などの禅宗の寺院が開かれ、中国から導入された新しい技術は、以後のさまざまな建物にも応用されました。

建築史ではこれを禅宗様といいます。春江院本堂は、禅宗の方丈から発展した

ものです。

禅宗は他にも、喫茶や水墨画、枯山水の庭など新しい文化をもたらしました。

安土桃山文化と大工棟梁の登場

応仁の乱以降、室町幕府は衰退し、日本は戦国時代に突入します。この頃、民衆に浸透した浄土真宗は、一向宗として一大勢力となり、また各地では守護や大名が台頭してきます。それら地方の領主は、防備のために砦を築き、それが後に織田信長の手によって、絢爛豪華な安土城天守の建造につながっていきます。

その背景には、鹿苑寺金閣のきらびやかな北山文化と、戦さに備えた砦や櫓の建設技術、そして領主が抱える労働力が支えていました。

また、絢爛豪華な建築美は、徳川家康を神として祀った日光東照宮で最高潮に達します。東照宮の諸堂は、禅宗様の形式に習い、装飾は漆や胡粉、金箔や極彩色で飾りたてた艶やかな建物です。建中寺の御靈屋もその形式を受け継いだ

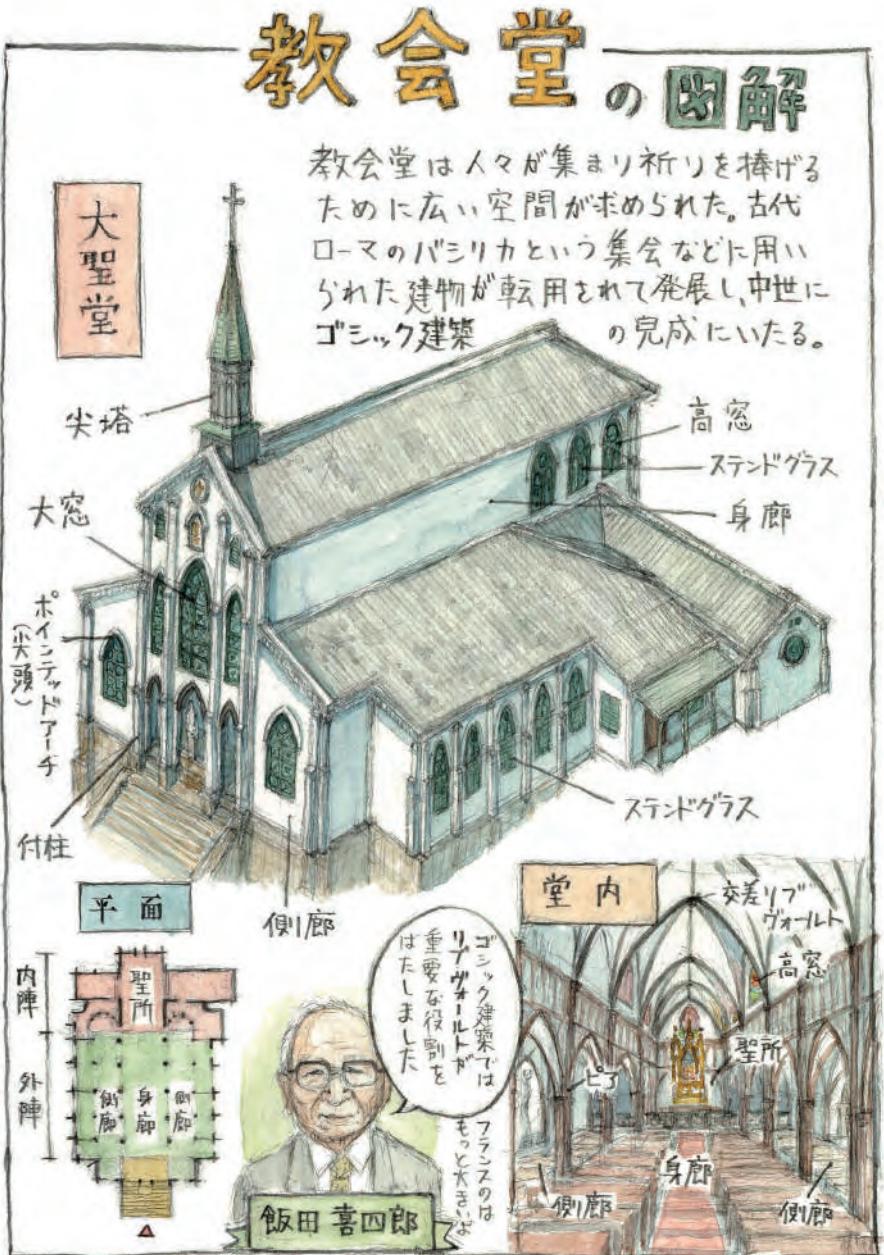
靈廟です。

しかし江戸時代に城の建設は禁止され、また本末制度で、寺社の規模や豪華な装飾も制限されていきました。戦国時代には、各地で活動していた工匠たちも國ごとに定着し、職能化が進みました。尾張の名工伊藤平左衛門や竹中家は、そんな時代に登場した棟梁たちでした。

ところで、近世の日本宗教界ではもうひとつ、大きな変革が起こりました。それはキリスト教の伝来です。厳しく禁止されたキリスト教徒を取り締まるため、寺院が戸籍を管理する檀家制度ができました。一方で、境内には寺子屋なども設けられ、寺院は教育の場としても使用され、庶民の生活の中心的な役割を果たすようになりました。

近代日本と國家神道体制

江戸時代が終わり、明治になると、それまで徳川幕府の機構の一端を担っていた寺院は、廃仏毀釈の憂き目に遭います。そして、仏教に代わる新しい国家の宗



教として整備されたのが、天皇家の直系となる伊勢神宮を頂点した神道でした。

それがあわせて社殿や境内の再整備も進められ、神宮寺の多くが破棄されました。熱田神宮は、尾張地方に伝わる尾張造という社殿形式を、伊勢神宮の神明造に改めました。また安久美神戸神明社も同じ形式に習いました。それら社殿の整備に務めたのが、内務省技師の角南隆でした。

一方で、キリスト教がようやく公認されると、長崎には大浦天主堂が建設され、同地には多くの魅力的な教会が建てられました。カトリック布池教会は、そんな長崎の教会堂の流れを受け継いでいます。またプロテスタント派の瀬戸永泉教会は、愛知県内でも初期の教会堂です。

激動の時代は、やがて太平洋戦争へと進み、神社や寺院、教会などの祈りの場の多くも戦災に遭いました。特に、軍需工場近くの社寺は被害が大きく、熱田神宮や真清田神社、東本願寺名古屋別院などは、境内のほとんどの建物を焼失しました。

おわりに

太平洋戦争が終わり、國家神道体制は解体され、有史以来続いていた政治と宗教の関係も分離されました。戦災を受けた神社や寺院も復興され、また日本福音ルーテル教会などのキリスト教の教会堂も新たに建設されました。

現在の私たちの生活は、かつてのようないまのように思えます。しかし、その一方では、自然災害や疫病など、人知を超えた驚異に直面した人々が、救いを求めて神仏にすがり、今も祈りの場で手を合わせます。

神社と神道

神社と神道は、もともと密接な関係がありました。神道は、古代から現存する生きた史跡です。そこには、神話の世界から古代の国造り、また戦国時代の英雄たちの息吹が残され、大切に受け継がれているのです。

劇的に変化していく現代社会の中では、神社や寺院や教会は、まちの歴史を伝えられる生きた史跡です。そこには、神話の世界から古代の国造り、また戦国時代の英雄たちの息吹が残され、大切に受け継がれているのです。